

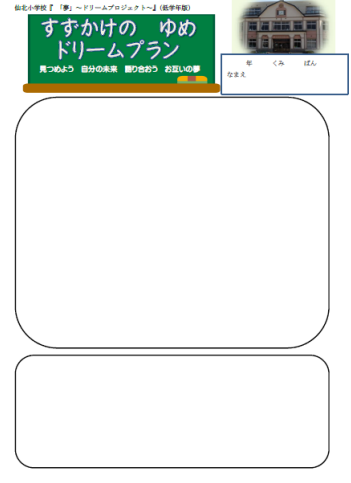
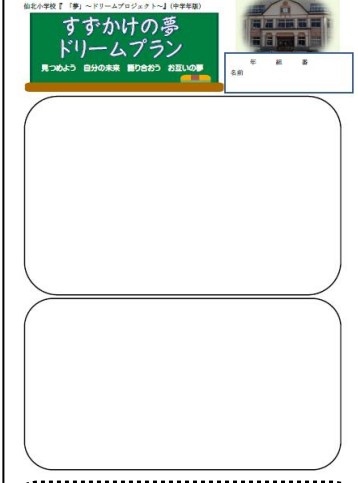
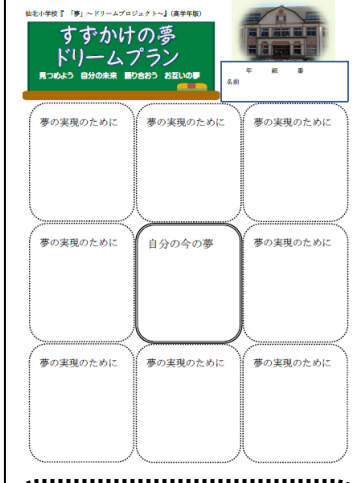
平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【岩手県・盛岡市】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	仙北小学校 5・6年生 244名 仙北小学校 保護者 16名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・オリンピック・パラリンピックの価値を、オリンピック・パラリンピアンから直接学ぶことで、児童が深く理解することができるようにするとともに、スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）について理解できるようにする。
5 取組内容	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ア 事前学習（講演会に向けての学習） ・福田選手についての学び（経歴等） ・福田選手への質問事項 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> イ オリンピック・パラリンピック講演会（5・6年対象） ・福田選手からの講演 ・実技研修 ・質問 等 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-bottom: 5px;"> ①講演の様子 ②実技研修（リフティング） ③傾聴する参加者の様子 ④全体での記念撮影 ⑤お見送りの様子 ※この他、福田選手への質問で学びを深めた。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ウ オリンピック・パラリンピック教育（5・6年対象） ・オリンピック・パラリンピック教育（オリ・パラの価値、共生社会について） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> エ 仙北小学校ドリームプロジェクト（全校児童対象） ・夢をもち、夢を語る全校集会の実施 </div>


6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・福田選手の講演から、参加者は、「フェアプレーの精神」、「プラスの言葉を発することの重要性」、「夢を持ち続けることの大切さ」について学ぶことができた。 ・本事業を活用することにより、これからの生活、これからの人生について、「夢」と「憧れ」をもち、学習活動の充実を図ることができた。 		
7実践において工夫した点 (事業の特色)	仙北小学校ドリームプロジェクトについて (今後の計画) 3つのねらい		
【オリ・パラ教育】 オリ(卓越・友情・敬意/尊重)、パラ(勇気・決意・平等・インスピレーション)の価値と共生社会	【キャリア教育】 将来を見つめ、自らの生き方を考え、行動する力、目標実現のため主体的に努力する態度の育成	【復興教育】 自分自身の未来を創造する人間、郷土を愛し、岩手の復興・発展を支える人材の育成	
ドリームプランの作成 自分の夢を考え、それを交流するため、個々の「ドリームプラン」を作成した。作成したプランは、学級内で発表し、お互いの夢を交流し、尊重しあった。			
			
低学年用プランシート 自分の夢と、それに関するイラストを記入する。	中学年用プランシート 自分の夢と、それを具現化するために頑張ることを1項目考え、記入する。	高学年用プランシート 自分の夢と、それを具現化するために頑張ることを9項目考え、記入する。	
すすかけの夢交流会の実施 (3月11日 全校集会) 東日本大震災にかかわって、岩手の復興教育と関連させた「すすかけの夢交流会」を実施する。全校で集まり、学年代表の「夢」を交流し、互いの夢を尊重しあうとともに、自らの未来や岩手の未来について希望を持たせる会としたい。			
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック教育を中核に据えた年間教育計画の再検討と充実のための手立て ・学校、地域の連携によるオリンピック・パラリンピック教育の推進 ・発達段階に応じた本事業活用方法の明確化 		
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・仙北小学校「ドリームプロジェクト」の中核として、本事業を継続する。 ・平成31年度は、さらに保護者、学校関係者、地域を巻き込んだ形で実施したい。 ・今後は、聖火リレー教材等にも積極的に取り組んでいく。 		

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【岩手県】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者	花巻市立笹間第一小学校1～6年 131名（男子67名、女子64名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（体育、生活、総合的な学習）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	・オリンピックメダリストの体験談を聞いたり体操を指導していただいたりすることを通して、オリンピックやスポーツに興味関心を持たせる機会とする。
5 取組内容	<p>○オリンピック金・銀・銅メダリストの鹿島丈博選手の講演を聞く。</p> <p>○4～6年生23人にマット運動を指導していただく。</p> <p>(1) 事前指導</p> <p>オリンピック・パラリンピックについての関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京オリンピック・パラリンピックのマスコットを各クラスで決定し、投票した。 ・東京で2020年に開催されることを知る。 ・鹿島選手が、2つのオリンピックで金・銀・銅のメダルを獲得したことを知る。 <p>(2) 当日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンや動画によりオリンピックでの鹿島選手の活躍を観る。 ・鹿島選手の体験談や競技を始めたきっかけ、心構えなどを聞く。
	 <p>・4～6年生23人にマット運動を指導していただく。</p>

	 <p>(3) 事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 鹿島選手に感想やお礼の手紙を書き、送った。
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> オリンピックに参加したときの実際の映像をDVDで映していただきその迫力に児童は、感動していた。 オリンピックに対する興味・関心が高まった。(特に体操競技)
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 低学年も講演を聞くため、飽きさせないように講演の中に鹿島選手のオリンピック時の競技の映像をDVDで見せていただいた。 4, 5, 6年生の希望者23人を実際に指導していただいた。 オリンピックのメダルを持ってきていただき児童に見せた。 
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> もう少し鹿島選手本人の演技を見せてほしかった。 紹介、感想発表、入退場の時間があったので、45分ではなく60分授業の方が、よかった。
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 未定

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I、 V 】																				
2 実践対象者	奥州市立田原小学校 3～6年生 26名																				
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (体育・道徳)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 (ゆとり)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>																				
4 目標 (ねらい)	<p>(1) オリンピック・パラリンピックの意義や歴史、アスリートの思いを知ること、オリンピック・パラリンピックに対する理解を深め、2020東京大会に向けての意識を高める。</p> <p>(2) オリンピアンへの競技への取り組みや努力、思いを知り、夢に向かって努力する姿勢やあきらめずに努力する態度を養う。</p>																				
5 取組内容	<p>1 指導計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">教科</th> <th style="width: 40%;">ねらい</th> <th style="width: 40%;">内 容</th> <th style="width: 10%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>体育</td> <td>オリンピックの意義や歴史、オリンピックで活躍した人などを調べる活動を通してオリンピックに対する意識を高める。</td> <td> ○オリンピックについて調べたこと ○東京オリンピックについて 指導資料DVD第1章、第4章 ○オリンピックで心に残る人やこと </td> <td>学習プリント1</td> </tr> <tr> <td>道徳</td> <td>1-2 不とう不屈、希望、勇気 より高い目標に向かって、くじけないで努力しようとする態度を養う。</td> <td> ○よりよく生きる喜び ・困難を乗り越える人間の強さや気高さ </td> <td>5校時 13:45～14:40</td> </tr> <tr> <td>体育</td> <td>星奈津美さんの実技指導を通して、水泳運動の基本や運動に取り組む態度を学ぶ。</td> <td> ○講師：星奈津美さんの紹介 ○星さんの講話 ○実技指導 ○質問 </td> <td>江刺クリーンパーク 13:30～16:30</td> </tr> <tr> <td>ゆとり</td> <td>○星奈津美さんへ感謝の気持ちを表す。</td> <td>○星さんへ感謝の手紙を書く</td> <td>朝活動 or 振り返りの会 各教室</td> </tr> </tbody> </table>	教科	ねらい	内 容	備考	体育	オリンピックの意義や歴史、オリンピックで活躍した人などを調べる活動を通してオリンピックに対する意識を高める。	○オリンピックについて調べたこと ○東京オリンピックについて 指導資料DVD第1章、第4章 ○オリンピックで心に残る人やこと	学習プリント1	道徳	1-2 不とう不屈、希望、勇気 より高い目標に向かって、くじけないで努力しようとする態度を養う。	○よりよく生きる喜び ・困難を乗り越える人間の強さや気高さ	5校時 13:45～14:40	体育	星奈津美さんの実技指導を通して、水泳運動の基本や運動に取り組む態度を学ぶ。	○講師：星奈津美さんの紹介 ○星さんの講話 ○実技指導 ○質問	江刺クリーンパーク 13:30～16:30	ゆとり	○星奈津美さんへ感謝の気持ちを表す。	○星さんへ感謝の手紙を書く	朝活動 or 振り返りの会 各教室
教科	ねらい	内 容	備考																		
体育	オリンピックの意義や歴史、オリンピックで活躍した人などを調べる活動を通してオリンピックに対する意識を高める。	○オリンピックについて調べたこと ○東京オリンピックについて 指導資料DVD第1章、第4章 ○オリンピックで心に残る人やこと	学習プリント1																		
道徳	1-2 不とう不屈、希望、勇気 より高い目標に向かって、くじけないで努力しようとする態度を養う。	○よりよく生きる喜び ・困難を乗り越える人間の強さや気高さ	5校時 13:45～14:40																		
体育	星奈津美さんの実技指導を通して、水泳運動の基本や運動に取り組む態度を学ぶ。	○講師：星奈津美さんの紹介 ○星さんの講話 ○実技指導 ○質問	江刺クリーンパーク 13:30～16:30																		
ゆとり	○星奈津美さんへ感謝の気持ちを表す。	○星さんへ感謝の手紙を書く	朝活動 or 振り返りの会 各教室																		

2 実践の様子

(1) 事前学習

事前学習として、昨年度の学習の振り返りを行った。

昨年度、「星奈津美さんから学ぼう」の学習で、なにを学んだのか、学んだことをどのように実践してきたのかを振り返った。

子ども達からは、星さんの講演の中で頂いた言葉

「悔しい経験を前向きにいかすこと」

「努力できる環境に感謝すること」

「夢は自分一人だけのものではないこと」

をしっかりと心に留めて学校生活に取り組んできた様子が伺え、昨年度の学習がとても有意義であったことがあらためて感じられた。

◎ 「星さんから学ぼう」PartII
6年

1 昨年星奈津美さんから学んだことを書きましょう

何に対してもあきらめずに前向きに、努力する。
支えてくれる家族や友達に日々感謝の気持ち
を忘れる生活する。
がんばっているのは自分だけではない、チームとしてがんばる協力。

2 星さんから学んだことを、学校や家庭での生活でどのように取り組んできたか書きましょう


水泳記録会、陸上記録会、タグラグビーなど、
ミスしたり失敗したりしてもあきらめず「次はがんばらねば」
と前向きに考えて、努力することを心がけた。
いつも支えてくれる家族や先生方に感謝の気持ち
をもて、生活してきた。
学校で協力して多くの行事をのりこえることができた。

3 今回の実技指導で星奈津美さんから学んだことを学びたいですが、

本格的な泳ぎ方。(バタフライのこつなど)
今までどのような練習をしてきたのか。
実際に星さんの50mバタフライを見てみたい!

4 ガリニックについて知っていること、調べたこと、楽しみにしていることなどを書きましょう。

オリンピックはギリシャで始まった。
再来年の東京オリンピックでは、
野球、ソフトボール、空手、スケートホ
スポーツライミング、サーフィンの新しい
競技が始まる。



◎ 「星さんから学ぼう」PartII
6年

1 昨年星奈津美さんから学んだことを書きましょう

前向きにがんばること。
家族や友達に感謝すること。
チームを大事にすること。

2 星さんから学んだことを、学校や家庭での生活でどのように取り組んできたか書きましょう


タグラグビーや水泳、陸上、前向き感謝チーム
という思いこはも目標にがんばって、声をかけあ
たり、チームをあげました。先生や応援してくださ
た家族などに「ありがとうございます」と感謝
しています。

3 今回の実技指導で星奈津美さんから学んだことを学びたいですが、

どんなことに気をつけて泳いでいるか。
ぎんちょうしないためにどんなことをしているか。
水泳をやるうえでどんなトレーニングをしているのか。

4 ガリニックについて知っていること、調べたこと、楽しみにしていることなどを書きましょう。

近代的なオリンピックは副都立エッセンスが関係する
世界的な総合スポーツ大会現在夏季大会は秋
の大会が4年一度、夏季大会は西暦の4の倍
数の年々大会は4の倍数では4の倍数の年の
年毎に開催されるので、2年に1度開催する
ことになる。



また、下記のように道徳の授業を行った。

○内容項目－「よりよく生きる喜び」

○主 題－「困難を乗り越える人間の強さや気高さ」

○ね ら い－「人間には弱さとそれを乗り越えようとする強さや気高さがあることを理解し、人間としての生きる喜びを感じよりよく生きようとする心情を育てる。」

○資 料－「義足の聖火ランナー」～クリス・ムーン～

○考 察－授業を通して子ども達からは、「自分も、つらくても自分の目標に向かってがんばりたい。」「星奈津美さんの話にある、前向き、感謝、チームの言葉のようにがんばりたい。」といった感想が話された。

病気を克服してオリンピックに挑んだ星奈津美さんの話をあらためて考え、実技学習への意欲が高まった。

5 取組内容

(2) 星奈津美さんから学ぼう Part II



【星さんと円陣を組んで学習スタート】



【星さんの泳ぎを見て感激】



【蹴伸びの練習、ストリームラインを確認】

昨年度、星さんから教えて頂いた言葉、「前向き、感謝、チーム」を、合い言葉にいろいろな場面で取り組んできた。

今日も星さんと円陣を組んでかけ声をかけ、学習が始まった。

はじめに、星さんのクロールとバタフライの泳ぎを水中に潜って見学した。

メダリストの泳ぎをこんなにも近くで、しかも水中から見ることができるなんて、二度とない経験であった。

思わず、「お～！」と声が出るほどみんな、星さんのなめらかな泳ぎに感激・感心した。

いよいよ実技指導が始まった。

はじめは、水泳の基本「蹴伸び」の練習。

まずは自分自身で、その後、星さんにストリームラインのこつを教わってやってみた。

- ・足が沈まないように
- ・腕と頭の位置

繰り返し星さんから教えて頂いたことをやってみると、水の中をスムーズに進む感じがした。

ちょっとした姿勢に気をつけることで、みんな前より遠くへ蹴伸びで進むことができた。

次は、キック。バタ足の練習。ビート板を使って25mをバタ足で進んだ。

星さんは一人一人をしっかりと見てくださった。

水の上でキックすると空気の泡を蹴ってしまうので水中をしっかりとキックすることを教わった。

キック練習をした後はクロールを教わった。

まずはビート板を持って片方ずつストロークの練習、その後、ビート板をはずしコンビネーション練習をした。

- ・息継ぎは頭と一緒に腕を戻す。
- ・フィニッシュはしっかり肘が

伸びきるまでかききることを教わった。



【ビート板を持ってキックの練習】



【星さんに泳ぎのコツを質問】

その後は、星さん専門のバタフライの泳ぎのコツを教えてくださいました

- キックのテンポを大切にすること
- 呼吸のリズムもキックと合わせる

今まで思うように泳げなかったバタフライも、なにか泳げるきっかけをつかみ始めた子ども達だった。

最後は、星さんへの質問タイム。子ども達からたくさんの質問が出された。

そのなかで、「星さんのライバルは誰ですか。」という質問に対して、星さんは、格好いいこと言うようですがと、前置きされ、「自分にとっての、ライバルは自分自身です。自分に勝ってからでないと相手とは闘えない。練習では完璧を求めるのではなく、全てを出し切ろうと思って全力で取り組んできた。」とお話された。

「ライバルは自分自身」という言葉は、昨年度の授業で学んだ、星さんのあきらめず真摯に水泳に向き合ってきた生き様が示している言葉であったので、子ども達の心に印象深く残った様子であった。



【星さんと記念撮影】

(3) 事後学習

星さんからの実技指導を受けて、学んだことを振り返る学習を行った。授業後、子ども達からは以下のような感想が寄せられた。

- ・私は自分の生活の中で生かしたいことが一つあります。自分をライバルとして自分に負けず前向きにこれから生活していきたいということです。星さんから2度も水泳について教えて頂き、とても貴重で嬉しかったです。(6年)
- ・星さんのお話で、星さんのライバルは自分と言っていたので、ぼくもそれを聞いて、自分のライバルは自分自身にしたいです。星さんの泳ぎを見ていい姿勢だったしきれいでした。ぼくも星さんのように水泳がうまくなりたいです。星さんから学んだことをこれから生かしたいです。(4年)
- ・技術面だけでなく気持ちの面で星さんから学ぶことがありました。「本当のライバルは自分。」いつも自分の持っている記録を超えるように努力することが大切だとわかりました。新記録をだしても満足しないで次はその上をいくように努力することを忘れず運動でも生活でも心がけたいです。(6年)

星奈津美さんから学んだこと

6年

◇感じたことや学んだこと、これからの自分に生かしたいことなどを書きましょう

本当のライバルは他の人ではない、自分だということを知りました。どんなに強い相手でも最後のライバルは自分の気持ちなんだと思いました。私も(やめようかな)と思う時がありました。そんな時はこの言葉を思い出して自分と向き合いがんばっていきたくです。実技では、メダリストだからこその細かい動きを教えてくださいました。細かいけれどとても大切な動きなんだなと思いました。私たちが、「前向き」「感謝」「チーム」を目標として、とりくんできましたか、今日おそれたことを入れれば、もっと高めることができると思いました。今日、星さんから学んだことを次にいかし、これから「前向き」「感謝」「チーム」を目標とし、さらに高めていきたいと思いました。



星奈津美さんから学んだこと

6年

◇感じたことや学んだこと、これからの自分に生かしたいことなどを書きましょう

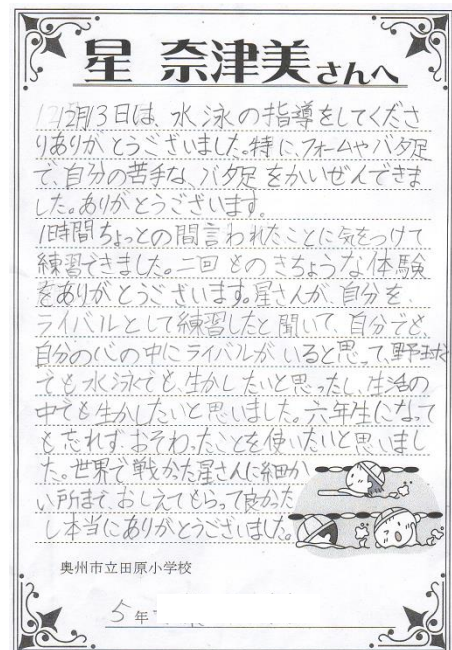
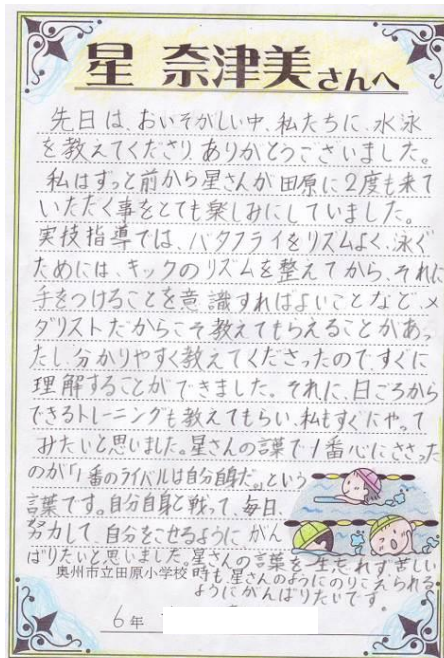
星さんに、水泳を教えてくださいました。技術の面でも、上達するところがありました。例えば、バタフライをリズムよく泳ぐためには、キックのリズムを整えて、それに手をつけることを意識すればよいことなど、メダリストだからこそ、教えてもらえることがあるし、分かりやすく、教えてくださったので、すぐに理解することもできました。それに、日ごろからできるトレーニングも教えてくださいました。私もすぐにやってみたくと思いました。技術の面以外にも、気持ちの面で星さんから学ぶことができました。「本当のライバルは自分だ、いつも自分の持っている記録をこえるように努力することが大切だ」とわかりました。新記録を出しても満足しないで次は、その上をいくように努力することを忘れず、運動面でも、生活面でも心がけていきたいです。星さんから教えてもらった事を忘れず、中学生になって、新しい生活が始まり、つらい事があったとしても今日の事を思い出して努力していきたいです。



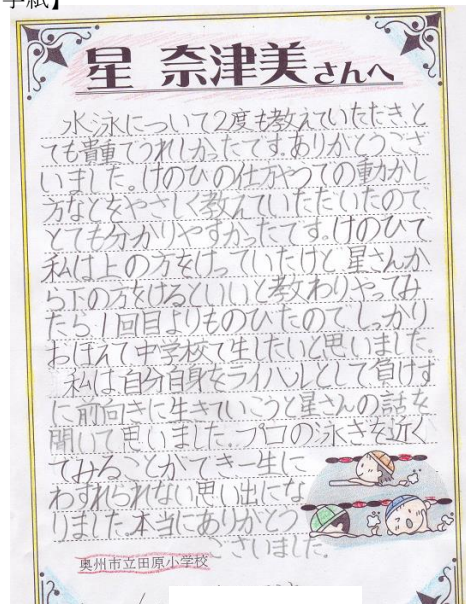
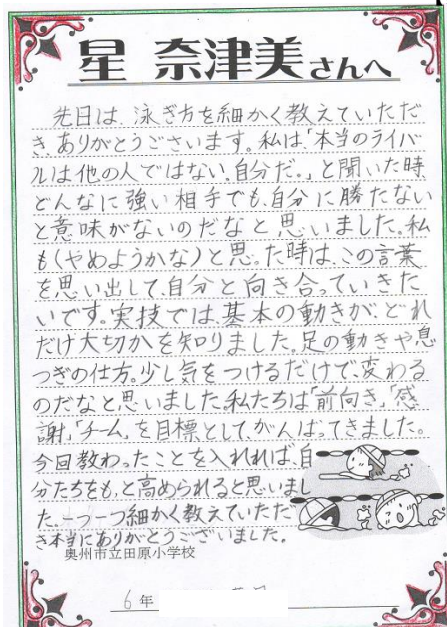
【学習の振り返り・星さんから学んだこと】

最後に、星さんへの感謝の思いを手紙に綴った。以下は、子ども達の手紙からの抜粋である。

- ・星さんが自分をライバルとして練習したと聞いて、自分でも自分の心の中にライバルがいると思って野球でも水泳でも生かしたいと思ったし、生活の中でも生かしたいと思いました。6年生になっても教わったことを忘れずに使いたいと思いました。世界で戦った星さんに細かい所まで教えてもらって良かった。本当にありがとうございました。
- ・私は自分自身をライバルとして前向きに生きていこうと星さんの話を聞いて思いました。プロの泳ぎを近くで見ることができ一生忘れられない思い出になりました。本当にありがとうございました。
- ・星さんの言葉で一番心にささったのは、「一番のライバルは自分自身だ。」という言葉です。自分自身と戦って、毎日努力して自分を超越するようにがんばりたいと思いました。星さんの言葉を一生忘れず、苦しいときも星さんのように乗り越えられるようにがんばりたいです。
- ・私は、「本当のライバルは他の人ではない。自分だ。」と聞いたとき、どんなに強い相手でも自分に勝たないと意味がないのだなと思いました。私も（やめようかな。）と思ったときはこの言葉を思い出して自分と向き合っていきたいです。私たちは、「前向き」「感謝」「チーム」を目標としてがんばってきました。今回教わったことを加えれば自分たちをもっと高められると思いました。一つ一つ細かく教えて頂いて本当にありがとうございました。



【星さんへの手紙】





<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前学習でオリンピックについての調べ学習をしたり、道徳でパラリンピック選手の題材を取り上げたりしたことで、オリンピック、パラリンピックへの理解と関心を高めることができた。 ○ 昨年度に続き2カ年で実施したことで、昨年度の講演で学んだことを実践した上での実技の学習となり、技術面はもとより精神面で大きく成長する機会となった。 ○ 実際に泳ぐ姿を見たり、ストリームラインの姿勢を教わったりしたことで水泳の基本姿勢について学ぶことができた。 ○ クロールのストローク、バタフライの呼吸のタイミングなど、自分たちの取組を通して疑問を抱いた点について教わり、改善を図ることができた。 ○ 2カ年を通して学んだことを、さらにこれからの自分の生き方に生かしていこうとする気持ちや態度の育成が図られた。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度の事業のみで終わらせることなく、星さんから学んだことを、様々な場面で目標として設定したり、学校内に掲示したりするなど、常に日常的、継続的に意識して実践した。 ○ 昨年度の講演を踏まえ、今年度はプールを貸し切ったの実技指導を行って頂いた。 ○ 実技のみならず、事前学習、道徳の時間、事後学習を含めた一連の学習として位置づけ、学んだことを学習プリントにまとめることができた。
<p>8 主な課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回は「江刺クリーンパーク」プールを貸し切り実施することができたが、公営プールではないため、経費がかかった。学校独自では実施できない場合も想定できることから経費の補助等の措置があれば良いと感じた。 ○ 2カ年の事業で学んだことを、今後の日常実践に継続的に生かしていくことが大切と考える。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○ 2カ年にわたり、非常に貴重な有意義な機会を与えて頂いて、心から感謝いたします。この事業で子ども達は将来に繋がるかけがえのない宝物を頂いたと感じております。</p> <p>来年度も実施させて頂けるなら是非お願いしたいと考えます。</p>

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【I、IV】
2 実施対象者	釜石市立釜石小学校 全校130人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (体育)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・2020東京オリンピック・パラリンピックに関心を寄せ、アスリートの話を聞いて自分の目標や障がい者について考える一助にする。 ・自分の目標を持つことの大切さを知り、行動しようとする心情を育てる。
5 取組内容	<p>1 星奈津美さん講演会 北京・ロンドン・リオオリンピック出場の話</p>  

パラリンピックをめざすスイマー親子と

メダルを手に喜ぶ子ども



2 実技指導

講演の終盤に、水泳に役立つストレッチを実技指導



3 オリンピック・パラリンピックの意義について

資料を基に校内放送で、オリンピック・パラリンピックの意義を話し、教室では担任から学級指導を行った。

星奈津美さん クイズ形式でオリンピック・パラリンピックについて学習



6 主な成果


- ・オリンピック・パラリンピックの意義について星奈津美さんから直接話を聞き、2020年東京オリンピック開催に向けて児童の興味・関心が高まった。
- ・けがをしたからあきらめるのではなく、自分の目標を持つ大切さを学んだ。障がい者への見方が変化し、自分も前向きに取り組もうという児童が増えた。
- ・車いす児童の母親も講演に来て、来年3月に行われる選考会に向け励みとなった。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プールでの実技指導ができなくなったので、講演の中で、水泳に役立つ運動を入れた。その際、一緒に前で実演する児童を選び、親近感を持たせた。 ・講演会終了後に、教室を回り、児童と直接話す機会を持った。 水泳の練習方法について細かなことも詳しく教えていただき、来年の市水泳記録会に向けて励みになった。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プールの改修工事が大幅に延期され、水泳の実技指導ができなかった。 ・実際に泳ぎながら指導を受けると、児童の実態が分かり、教えることが具体的にわかるので、来年度できれば実施したい。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年できたら、実技を含め指導をお願いしたい。

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	III
2 実施対象者	学校名 盛岡市立上田中学校 対象学年 1 学年 クラス 4 学級 人数等 男子64名 女子58名 計122名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	パラリンピックがどのような大会で、出場するためには並大抵の努力ではたどり着けないことを指導した上で、「パラリンピアンの方の生き方」について課題化し、講演会で聞いたこと・わかったことを調査活動とし、課題についてまとめる。
5 取組内容	<p>総合的な学習の時間の学びのサイクルを意識して、取り組んだ。</p> <p>事前：パラリンピックとはどのような大会で、出場する選手はどのような「生き方」をしているかに着目させて、課題化する。</p> <p>事中：講演会を調査活動とし、課題化したことについての質問を考えながら、講演会で聞いたこと・わかったことをメモする。</p> 



事後：課題についてまとめる。

6 主な成果

障害を負うという困難を自らの努力や周囲の支援で這い上がり、新たな夢の舞台に立つことができた横澤さんの生き方をモデルとして、生徒は「生きる」とはどういうことなのか、自分なりに考えることができた。

昨年度、生徒が大変感動していたこともあり、横澤さんに今年度も引き続きお越しいただいた。今年度も生徒は大きな感動と学びがあったことが生徒の振り返りの記述からわかった。今年度は総合的な学習の時間のサイクルに乗せて課題化することで、より横澤さんの生き方から学ぶ、学びのサイクルを意識することができた。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>総合的な学習の時間の学びのプロセス、課題の設定→情報の収集 →整理・分析→まとめ・表現 を意識した。</p> <p>年間計画がなく、短期的な内容ではあったが、自分なりの課題をもって聞き、自分なりの学びにつながっていた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>講師との仲介をしてくださった企業の方に、学校の事情をご理解いただけなかったのが残念だった。</p>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>なし</p>

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	盛岡市立乙部中学校 1～3年生徒 193名 保護者参加者3名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (パラリンピアンに学ぶ会・教育関係行事) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	ア 生徒たちがオリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高めるきっかけを作り、将来にわたって学べるようにする。 イ パラリンピアンとのふれあいを通して、生徒たちが自分自身の将来に希望や目標をもったり、それを実現するための計画を考えたりするきっかけを作る。 ウ 生徒たちが、今行っている諸活動への取組を見つめ直し、より明確に目的意識をもって取り組めるようにする。
5 取組内容	ア 事前学習 12月10日・11日 「パラリンピアンに学ぶ会」を開催する意義や、講師の根木慎志さんについて、事前に学ぶ機会（20分程度、教師からの説明とビデオ視聴）を学年ごとに設定し、当日に向けた動機付けをはかった。 イ 当日「パラリンピアンに学ぶ会」 12月12日(水) 5、6校時 本校体育館 講師 根木 慎志 氏（シドニーパラリンピック日本代表） 13:30 からの講師紹介に続けて、根木さんのペースにお任せして進めていただいた。これまでの経験とそこで感じた思いや願いをたっぷりと語っていただくとともに、ビデオ視聴や実技体験等を織り交ぜて講演していただいた。



	<p>ウ 事後学習 12月13日 各学級において前日の会の振り返りを行った。(20分程度)担任の教師と生徒で会について話し合うことを通して内容や話されて心に残ったことを想起させ、アンケートを記入した。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>ア オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心の高まり 生徒の感想から 「根木さんの熱い思いを聞いて、オリンピック・パラリンピックに対する自分の思いがすごく変わった。」 「障がい者の人たちのいろいろないいところやがんばっている様子を話してくれて、パラリンピックもテレビで観戦したいです。」 「パラリンピックに出場する人たちは本当にすごいなと思ったしキラキラと輝いているように見えました。」</p> <p>イ 障がい者やパラスポーツに対する興味・関心の高まり 「障がい者はかわいそうじゃないと思ったし、根木さんと会って努力が大事だと身をもって思いました。」 「スポーツ以外でも障がい者と世界の人に関わり合うことができる社会を作っていきたい。」 「障がいのある人も、周りの人が助ければ障がいがなくなるということに感動しました。」</p> <p>ウ 講師とのふれあいからの、人としてのさまざまな学び ①夢や希望をもち、それに向かって努力する大切さ 「何事も暗く考えず、前向きに生きるのが大切。私も目標を立ててチャレンジしたい。」 「たくさんの方に挑戦しようと思ったし、勇気をもらいました。」 ②周りの人への思いやりや感謝の心 「人は生きていく中で感謝の気持ちが大事ということを改めて実感することができた。これからの生活では感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたい。」 「自分に関わっている人たちに感謝をしながら、スポーツをしていきたいと思います。」 「人間関係を大切にしたいと思います。」 ③生きること、がんばることに対する意欲 「『自分に残されたものを生かして生きよう』という言葉が印象に残りました。」 「何事も勇気をもって自分から進んでいくことを、これからの人生に生かしていきたい。」 「人なんて差別するもんじゃない!と思いました。人は皆同じ『人間』ということが改めてわかりました。」 「自分が本当にやりたいことを成し遂げるためには諦めないでやり続けることが大切ということ学びました。」</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>・特にありません。</p>



8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 本校の場合、12月の体育館での開催はやはり寒かった。健康面で心配という生徒はなかったが、どの生徒も学習に十分に集中できるよう、開催時期や会場についてはもっと配慮すべきであった。 • 車いすバスケットボールの体験的な活動をもっと行うことができればさらによかった。そのためには車いすの確保の問題がある。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 本校では独自に7月にも平昌オリンピックに出場したスキージャンプ複合の永井秀昭選手をお迎えしての講演会を行っている。できれば来年度以降もオリンピック、パラリンピアンを学校にお迎えしたり、あるいは講師との交流を続けたりして、生徒たちが学ぶ機会を継続的に行っていきたいと考えております。

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	西和賀町立沢内中学校 全校（4クラス 61名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ○ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	○障害者スポーツへの理解 ○夢、希望を持って努力することの大切さ ○障害者と健常者による違いを理解し、偏見をもたないこと、人との関わりの大切さ について学ぶ機会とする。
5 取組内容	<p>○パラリンピアン横澤高德さん（チェアスキー）の講演。 ○当日は、【開会行事】【講演・実技体験】【閉会行事】の流れで実施した。 ○時間配分については、実技体験の時間を確保していただき、講演を40分程度、実技体験を40分程度とした。</p> <p><講演></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演に先立ち、これまでの様子をDVDで紹介した。（3分程度） <p style="text-align: right;"></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健常者での生活から障害者となったケガ、落ち込んでいた自分の心、障害者スポーツとの出会いなどの話しをしていただいた。 <p style="text-align: right;"></p>

〈実技体験〉

- 各学年を4つのグループに分けそれぞれの車椅子について体験を行った。
- バスケット用車椅子によるスラローム体験



- チェアスキー体験



- 長距離用車椅子体験



- バスケット用車椅子によるシュート体験



6 主な成果

○講演の内容より、障害者になったことの失意、ある障害者との出会いから「できること探し」をした自分の心の移り変わり、障害者スポーツとの出会いなど、ユーモアを交えながら話していただき、障害者スポーツへの理解は深まったと思われる。

○チェアスキーとの出会いと仲間との信頼、絆、周囲の協力や支援により、講師がパラリンピック出場までの努力を続けた経験を聞き、努力型の人間ではなくても、考え方一つで努力し、夢を叶えることができるかと生徒に伝わったと思われる。

○ほとんど興味がなかったパラリンピックに対して、2020東京パラリンピックを観戦したいと思う生徒が多かった。

〈生徒の感想より抜粋〉

- 講演を聴いて、「夢や希望を持つこと」「出会いの大切さ」「自分が夢中になれるものを見つけること」が大事だと思った（1年男子）
- 自分ができていないことをできるようにすることや、今できていることを幸せと捉え、もっと実力を伸ばしていきたい（1年男子）
- 「自分と違うからやだ」というのではなく、障害者の方々の気持ちを受け入れることが大切だと思った（1年女子）
- 自分が夢中になれるものを見つけ、それ一筋に挑戦できるように努

	<p>カしていきたい（1年女子）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから生きていく上で、健常者と障害者ではなく、人と人同士が尊敬し合うことが必要だと知った（2年男子） ・講演を聴いて、自分に自信を持って生きられるようになった（2年男子） ・パラリンピックに出ている選手や車椅子生活などしている人達が、どれだけ努力したのかが、前よりも分かった気がする（2年女子） ・ボランティア活動で自分が戸惑うことがあったが、講演を聴き、困っている方々が笑顔や元気になってもらうための事をしたらいいのだと確信した（2年女子） ・障害者と健常者の壁がなくなり、強くつながっていくことで何でもできるのだと感じた（3年男子） ・車椅子生活になってから、目標を新しくしたり、少し視点を変えて物事に挑戦したりする話を聴き、自分も目標に向かって頑張ろうという勇気をいただくことができた（3年女子）
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の特性として、小学生時代にはスキーを行っているため、特にチェアスキーの体験をお願いした。DVDによる映像や実際にチェアスキーに座ることで、健常者のスキーと異なる点に驚き、戸惑うことで視野が広がったものと思われる。 ○通常の車椅子については、小学生時代に体験しているものの、競技用車椅子については全員が未経験者であったため、全員が体験する機会を設定した。 ○福祉体験として高齢者と接することはあっても、障害者との交流はほとんどないため、健常者との違いを肌で知る機会を設定した。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○日常ふれることができない各種車椅子の体験活動ができることから、できるだけ広い場所で実技・体験を行う。 ○事前に体験できる車椅子の種類を明確にし、どのような体験活動が可能であるかを検討する。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒にとっては貴重な体験であり、有意義な講演会であったと感じる。保護者を含めた講演会として、時間を多く設定することで、社会に目を向ける機会となると思う。 ○生徒のみの体験としては、新たな経験や未知なるものに触れる機会と捉え、3年後に設定できればよいと考える。

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	岩手県立一関第二高等学校 全学年（644名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 保健体育 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ LHR ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	2020年に行われる東京オリンピックに興味関心を持たせ、多様な視点からオリンピックに関わる意識や態度を育成する。また、オリンピックの話聞くことで、本校生徒の潜在能力を引き出すきっかけとする。
5 取組内容	<p>■事前指導 (目的・講師の紹介・オリンピックの価値についてプリントを使用)</p> <p>■講演会(講演20分・実技披露20分) *実技披露では、前半は実際の道具を使いながらルールを説明していただき、後半は本校フェンシング部の生徒3名と対決をしていただいた。</p> <p>■事後指導 (アンケート2つ実施)</p>



6 主な成果	<p>自分の努力次第で結果につながると感じた様子で、今後の生活に意欲を持った生徒が多くいた。オリンピックの言葉は生徒たちの心に大きく影響を与え、自分の目標達成に向けて努力するきっかけとなった。このことから、目標であった潜在能力を引き出すきっかけとしては大いに成果が得られたと考える。</p> <p>アンケート結果から、講演前はオリンピック・パラリンピックに対してあまり興味・関心がなく、関わり方も知らなかったようだが、講演後は様々な形で関わりたいと考える生徒が多くなった。特に「見る」、「知る」といった関わり方に興味を抱いたようである。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>実技披露だけでなく、フェンシング部の生徒と対決という形をとった。</p> <p>本校をリードするフェンシング部の生徒と直接対決をしていただくことで、より生徒たちがオリンピックを身近に感じ、興味を抱くのではないかと考えた。また、世界と戦う人はこんなにもすごいのだと感動を覚え、よりフェンシング競技を始めスポーツ、オリンピックの魅力を感じるのではないかと考えた。</p>
8主な課題等	<p>■50分授業の中での実施であったが、これでは短すぎた。 (約15分オーバー)</p> <p>■質疑応答の時間の確保 (2人質問したが、質問をしたい生徒がまだまだいたように感じた。)</p>
9来年度以降 の実施予定	<p>保健体育の授業を中心に、オリンピック・パラリンピックについての学びを入れていきたいと考えている。</p> <p>具体的には、実際に各競技の映像を見せたり、パラリンピックの種目の体験をさせてみたい。</p> <p>また、競技を見るだけでは見えてこない、経済効果等の社会問題等についても体育理論の授業を中心に行っていく。</p>



平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県・盛岡市 】

1 実践テーマ	【I、III、IV、V】
2 実施対象者	岩手県立盛岡南高等学校 体育科 1年生（38名） 2年生（42名） 普通科体育コース 1年生（39名） 2年生（42名） 合計 161 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ スポーツ総合演習 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○目的 オリンピック・パラリンピック・ムーブメントについて理解し、 スポーツの社会的役割と課題を学ぶことを目的とする。 ○育成を目指す生徒像 ①自己を肯定し、自らの目標を持って、自らのベストを目指す意 欲と態度を備えた人間 ②スポーツに親しみ、知・徳・体の調和のとれた人間 ③日本人としての自覚と誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感 覚を備えた人間 ④多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢 献できる人間 また、体育科・体育コース設置校として、以下のような教育 効果を期待し実施する。 ⑤大会マネジメントの観点から、支えるスポーツを学びスポーツ に対する視野を広げる。 ⑥生涯スポーツの観点やキャリア教育の一環として、スポーツへ の様々な関わり方を学ぶ。

<p>5 取組内容</p>	<p>○事前学習 「オリ・パラ・ムーブメント全国展開事業」について 1 目的について ①スポーツの価値 ②オリ・パラの理念と教育意義 ③オリ・パラ教育の具体的内容 2 平成29年度の事業について ①実践の現状 ②オリ・パラ教育のテーマ 3 ビデオ学習 「夢に向かって」車いすアスリートの挑戦 ～福島正純さんの取組について</p> <p>○本事業 車いすバスケットボール2000年シドニーパラリンピック出場 根木慎志さん 1 講演(60分) 2 実技(50分)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>○事後学習 1 アンケート記入 2 事後学習 ①本事業の目的の再確認 ②日々の取り組みについての再確認</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>○成果 1 事前学習 本事業の目的等を改めて考える良い機会となった。その中でオリンピック・パラリンピックについての興味関心を持てる状態を作れたことが一番の成果であった。</p> <p>2 本事業 アンケートをまとめると以下のような学びがあった。 ・スポーツの本質(意義、価値等)を理解度向上 ・2020東京オリ・パラに興味、関心が向上 ・多様性の尊重と共生社会の実現についての理解度向上 ・人としての心の持ち方、在り方を再考、再確認 ・生涯スポーツへの意欲 ・パラスポーツそのものへの興味、関心の向上</p>

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>特記事項なし (本校としては、学びのきっかけとしての要素が高い。今後、様々な工夫を生み出していくものと理解している。)</p> 
<p>8主な課題等</p>	<p>第一に学びの機会としてのシリーズ化(複数回)できれば、その効果は上がると考える。単発では、日々の活動に追われ、意識の向上も薄れてしまう。</p> <p>また、スポーツ総合演習として扱う時、年間を通しての研究課題として扱いたい。</p> <p>どちらの観点からも、年間を通して授業の一つとして学んでいくのが体育科を持っている本校の在り方と考える。つまり、複数回の講義でありながら、生徒の興味関心に沿った内容を準備していくことが必要だと思う。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>8を踏まえ、継続的に実施していくことを考えている。</p>

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	岩手県立久慈東高等学校 全校生徒557名 保護者・一般来訪者 14名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (文化講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックの実際に触れ、パラリンピックの意義を学ぶとともに、障害のある方々と共生できる社会形成へ興味関心を持たせる。 ・東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みについて学び、スポーツを媒体とした社会全体の動きに目を向けることで、広い視野を持たせる。
5 取組内容	<p>(1) 授業</p> <p>体育の授業にてオリンピックの起源から振り返る、オリンピックの歴史や意義についての授業を行った。</p> <p>体育理論のテキストに載っている内容だけでなく、東京オリンピックの広報動画等を用いて、わかりやすく学びやすい授業を行った。</p> <p>パラリンピックに触れる中では、今回の事業で本校へ講師として来ていただく初瀬勇輔氏の紹介も行った。</p>



(2) 文化講演会

北京オリンピック視覚障害者柔道競技日本代表の初瀬勇輔氏から講演をいただいた。

初瀬氏の生い立ち、障害者競技に携わったきっかけ、障害者競技の実際やパラリンピックでのことなど、75分にわたって詳細にご講演をいただいた。

初瀬さんの講演では「質問に該当する人は拍手で答える」という活動が随所に取り入れられた。「男子はどのくらいいますか」「柔道をやっている人は」などの質問に対し、該当する生徒が拍手で答えることで、視覚障がいを持つ初瀬氏が全体を把握できるようにするとともに、全体と対話をしているかのような講演であった。生徒は「障がいを持つ人とも工夫1つで楽しく交流ができる」ということが実感できたようだった。

講演後の質疑応答では、生徒から「パラリンピックの舞台ではどのような気持ちで臨んだか」「目が見えない中で、あったら良いと思う物は何か」などの質問があり、質問にも丁寧にお答えいただいた。



6主な成果

ほとんどの生徒にとって、パラリンピアンとの交流、パラリンピック競技の参観が初めてであり、その良さや意義を学ぶことができた。

今回は視覚障害者柔道競技について講師からお話をいただいたが、競技特性として「視野が違ったり、視力が違ったり、あるいは障がいの持たない人とでも対等に全力で勝負することができる」ということが挙げられ、生徒の心にとっても深く残ったようであった。特に、「他競技ならどのようなルールにすれば対等な勝負ができるのか」「他の障がいならどのようなルールになるのか」といった考えの広がりや、「実際に大会に行って試合を見てみたい」という興味関心を持たせることができた。

また本校の介護福祉系列の生徒にとっては、より身近な話として障がいについて学ぶことができ、さらに障がいを抱えながらスポーツや事業に挑戦する方とのふれ合いはとても意義深いものになった。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や一般来訪者も参加する行事であり、生徒だけでなく地域の方々へ東京オリンピック、パラリンピックへ向けた取り組みや教育的意義を公表する良い機会となった。 ・地域で盛んなスポーツである柔道の専門家に来ていただくことができ、地域の方々や生徒にとって身近な話として学ぶことができた。 ・体育科だけでなく福祉科と連携し、全校で行う行事としたことで、生徒だけでなく全職員が興味を持ち、生徒とともに学ぶことのできる内容となった。
<p>8主な課題等</p>	<p>「オリンピック、パラリンピックに興味を持った」という生徒がとても多く、「見に行ってみたい」という感想も挙がったため、次は「携わりたい」「参加してみたい」という声をもっと増やしたい。東京から距離のある地域のため「興味はあるけど何をするにも遠すぎる」という意識が強いからではないかと考える。このことを踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック、パラリンピックについて、どのような携わり方があるのかを学ばせたい。 ・講師の方に実演する場を提供し実演を交えていただくことで、東京オリンピック、パラリンピックをより身近な出来事として捉えさせたい。 <p>上記のような点を次年度の課題としたい。</p>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>10月…オリンピック・パラリンピックについての事前学習 11月…文化講演会にて講演 感想文・振り返りシートを用いた事後学習の実施</p>

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実践報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【岩手県】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者	岩手県立花巻清風支援学校 児童生徒 220 名 教職員・PTA・地域関係者 80 名 合計 300 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育・保健体育) ② 行事名 (オリンピアンとの交流会)
4 目標 (ねらい)	(1) オリンピアン、パラリンピアンによる授業をとおしてスポーツの楽しさやスポーツに取り組む姿勢(心構え、態度)について知り、仲間とともに主体的に取り組む態度や公德心の育成・向上を図る。 (2) 児童生徒、教職員、PTA、同窓会及び地域の関係者にとって、オリンピック・パラリンピアンとの交流を励みとするとともに、共生社会に向けた理解推進の機会にする。
5 取組内容	<p>(1) 事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック、パラリンピックの歴史と目的 ・東京オリンピック、パラリンピックの日程等 <p>(2) オリンピアンによる講演・実技指導</p> <p>講師：鹿島丈博先生（大東文化大学専任講師） 体操オリンピックメダリスト(アテネ、北京)</p> <p>講演：「オリンピックでの経験談とこどもたちに伝えたい大切なこと」 実技：「誰でもチャレンジできる簡単なマット運動」（選抜児童生徒）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(3) 事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習及び講演の振り返り、スポーツの魅力等 ・アンケート

<p>6 主な効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリンピックメダリストから自分自身のスポーツとの出会いや興味を持ち始めたきっかけや多くの人に支えられてきたことに対する感謝の気持ち等、貴重なお話を聞くことができたこと、さらに直々にマット運動の指導を受けることにより、スポーツと運動に取り組む姿勢や興味・関心を持つ児童生徒が増えた。 ・ どんなことにも目標を持って取り組むことの大切さ、チャンスはどこにでも流れているが努力している人にしか見えないこと等、物事に取り組む姿勢を学ぶことができた。 ・ 児童生徒、教職員、保護者及び地域の方々にとって、直接オリンピアンに指導を受けることにより、努力し続けることやスポーツの価値を再確認し、東京オリンピック・パラリンピックを身近に感じることができる契機となった。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒や来校者への啓発を図るために、廊下の掲示板にオリンピック・パラリンピックコーナーを設置し、関連記事や資料を作成して掲載している。 ・ オリンピック、パラリンピックの説明の前に、本校の生徒が参加している県障がい者スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会の様子について、生徒自身から感想等を発表することで、スポーツ大会の内容について理解できるように取組を進めてきた。 ・ パラリンピックの正式競技であるボッチャを授業に取り入れ、パラリンピック競技についての興味・関心を高める取組を進めてきた。 ・ 児童生徒の実態に合わせ、動画や写真を使いながら説明をすることを心掛けた。 ・ オリンピアンの指導の下、実際に指導を受ける場面を想定して児童生徒の興味・関心を高めることができるように配慮した。 ・ 生徒からお礼のことばと手作り作業製品を記念品として贈り、感謝とエールの気持ちをこめて校歌を斉唱した。 <div data-bbox="1062 645 1442 927" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1062 1043 1442 1326" data-label="Image"> </div>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間が限られており、講演の後の質疑応答の時間を確保することができなかった。 ・ 児童生徒の実態に大きな差があるため、各レベルに応じた指導計画の立案に腐心した。 ・ 自分の生活エリア以外のことに興味を持たない児童生徒に対して、どのようにスポーツの魅力を伝えること等の関わりを行っていけばよいのか。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年の実施実績を基に、次年度も継続実施したいと考えている。